学校名・氏名	岐阜県立長良高校・大矢　尚巨

指導と評価の計画

領域　球技（ネット型）　卓球　　年次〔入学年次の次の年次（２年次）〕

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。
	思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、合意形成に貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	授業づくりのポイント
学習の流れ	0	健康観察　・　準備運動　・　本時の目標確認　・　内容等の確認																		・主体的な学習を行うことができるようにするためにＩＣＴを効果的に活用する。 ・多様な関わり方を経験できるようにする。 ・様々な違いに応じた課題や課題解決に向けた挑戦などを尊重できるようにする。
	10	オリエンテーション 健康・安全の確認	【学び直し】 ・ラケットでボール遊び 協働学習（2人1組） ・ネットを挟んでラリー練習 ・多球練習(ﾌｫｱﾊﾝﾄﾞ、ﾊﾞｯｸﾊﾝﾄﾞ) ・サーブ ・ラリー練習	【前時の復習】 【グループ学習　ストローク練習】　協働学習 ・ラリー練習→正しいフォームでできているか確認・多球練習 ・実際にボールを打つ姿をICTで撮影→確認・グループで話し合い ボール操作 ＩＣＴ							【チームごとの練習】協働学習 ・ストローク、サービス、チームの課題に応じた練習など ＩＣＴ								
	20											○リーグ戦Ⅰ（シングルス） チームごとにICTを活用し、試合中の動きを撮影する。 撮影した動画を空いた時間に確認する。 チームで話し合い次時のチーム練習に活かす。			○リーグ戦Ⅱ（シングルス） 空いた時間を有効に使い動画を撮影したり、動画を分析したり、「する・みる・支える・知る」の部分で関わりを持たせる。			○リーグ戦Ⅲ（ダブルス） ＩＣＴ		
	30	スキルチェック（ストローク・サービス・ラリー）	チーム決め ○試しのシングルス戦 ○チャンピオンゲーム 競技会	○簡易ゲーム（シングルス） チャンピオンゲーム ルール：３点先取で王様交代　3連勝で上位コートに移動																
	40	実態把握（試しのゲーム）																		
	50	整理運動　・　本時のまとめ　・　学習カードの記入　・　次時の課題など																		
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	評価方法
	知識				②			①				③							総括的な評価	ICT（MetaMoJi）
	技能			(②)		(①)		(③)	(④)		①		②			③		④		観察、ICT（ビデオカメラ）
	思・判・表					(①)	①				②			③			④			観察、ICT（Forms）
	態度	(①)					(②)			②		(③)			③			①		観察

単元の評価規準	知識	①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて理解している。 ②課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて理解している。 ③競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて理解している。
	技能	①ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ②ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができる。 ③ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ④ラリーの中で、相手の攻撃で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きができる。
	思・判・表	①選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。 ②課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ④球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。
	態度	①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。